

さとやま通信

s a t o y a m a つうしん

<Vol.53>

～「学研木津北地区」というのは鹿背山の里山のこと 里山活動を楽しみながら、里山再生に取り組んでいます～

【里地里山を未来につなぐために】

人の手が入り続けることで維持されてきた二次的自然の里山。維持していくためには、手入れが不可欠で多大な労力が伴います。これを担ってきた土地所有者のライフスタイルの変化や、社会情勢の変化で里山保全が困難な状態となりました。

そこで、里山からの恩恵を受けている多くの人々が、上手く力を合わせて里山を維持していく仕組み作りが大切になります。

多くの人が関わることで、豊かな体験と経験ができる環境を作り出すことが大切と考えます。



再生計画イラスト

【鹿背山での活動】

鹿背山の里山では、里山遊びをとおして生きる力を育む活動が進められています。

森を探検し、生き物に出会い、山の恵みをいただき、物づくりをする。それを楽しみに子どもも大人も集う場所にする。

自由に遊びながら、自然との付き合い方を学び、生きる力を培っていける場となるよう、さまざまな活動団体で、幅広い年齢層のボランティアとともに多様な活動が続けられています。

子どもが集う場所には、人が集う活力があふれます。

里山再生に関わるのは難しい、と考える皆さんも、まずは里山に入り、その空気を感じ、季節毎に楽しめる草花を愛で、里山の植生を知れば、里山がより身近なものに感じられると思います。

繁茂する竹林の伐採や、更新されずに高木となった樹木の切り倒し、水田や果樹園の整備に汗するのは辛い面もありますが、それを補って余りある充実感が得られるのも事実です。

今年度にスタートした「みもろつく鹿背山里山学校」。参加者は里山で繰り返されてきた「竹の子掘り」や「田植え」を体験し、里地の鹿背山を散策し、自然観察で、コガネムシやクワガタムシを見つけました。

このような体験をとおして、里山を身近なものに感じる方々が、里山ボランティアとして里山再生に関わるきっかけとなることを願っています。



里山の生き物
オオタカ・カスミサンショウウオ



里山活動へ GO!（里山活動に参加してみよう）

せっかく復元した里山も、活動の歩みを緩めれば、すぐに荒廃してしまいます。継続的な保全活動を続けることで、美しい里山を維持しつつ、豊かな里山の自然を守っていきたいと思います。

「おもしろそうだなあ、楽しそうだなあ」と、思われた方は、問い合わせてください。一緒に里山活動を楽しみましょう。



木津北地区保全推進室（都市計画課内）☎ 75-1222 ✉ kizukita@city.kizugawa.lg.jp